

編集後記

◇ 「干しいも」の美味しい季節である。2月13日に茨城県ひたちなか市の木名瀬^{き な せ}一さん^{はじめ}からいも類振興会へ、6品種（泉13号、ほしキラリ、ほしこがね、べにはるか、シルクスweet、こなみずき）から作った干しいもを送っていただいた。早速、賞味した。いずれの品種も個性があり美味しかった。個々人の好みもあり一概に評価はできないが、総じて「べにはるか」と「シルクスweet」は好評であった。

干しいもは近年、安心して食べられる安全で自然な健康食品として、人気を呼んでいる。老若男女から広く好まれて、消費拡大が更に進むことを期待したい。

◇ 本誌No123では、2014年11月28～30日に鹿児島市で開催された第6回日中韓サツマイモワークショップを振り返り、「東アジア地域におけるサツマイモ研究の新時代」と題して特集を組んだ。ワークショップへの参加者は、180名（日本100名、中国60名、韓国20名）であった。現在、政治面での日中韓関係は必ずしも良好とは言えない。しかし、今回のワークショップは和やかな雰囲気の中で進み、日中韓の研究者間における友好が深まったように感じた。

特集では、日本の報告者の中から7つの研究テーマに絞って、その発表要旨を掲載した。サツマイモ研究の新たな動向を読み取っていただきたい。

◇ 消費者と生産者をつなぐスーパー、生協、卸売業の市場関係者は、今、農畜産物の何に期待しているかを示す興味深い「2015年農畜産物トレンド調査」の結果が、1月6日にまとまり日本農業新聞から発表された。調査7部門のうちの野菜部門における調査結果の概要を、本誌のトピックスでも紹介した。

サツマイモ品種「べにはるか」の首位奪還を初めとしたサツマイモ品種の躍進という明るいニュースに比べ、ジャガイモ品種の凋落ぶりが顕著だ。この調査結果は、今後のいも類振興に当たって留意すべき様々なことを語りかけていると言えよう。

◇ 2014年10月17日に、いも類振興会から出版した『焼きいも事典』は、マスコミを初め読者からも大きな反響を呼んでいる。朝日新聞の報道を発端に、日本農業新聞、公明新聞、NHKテレビ、ラジオではNHK、毎日放送、朝日放送、また雑誌では「農業」、「技術と普及」で、この事典と焼きいもをいろいろな角度から紹介いただいた。事典の出版を通じて、焼きいもに対する国民の関心の高さと深さを、改めて再確認することができ嬉しかった。

（狩谷 昭男）

いも類振興情報 第123号

2015(平成27)年4月15日発行

定価 1部 500円
年間購読料(季刊) 2,000円

発行 一般財団法人 いも類振興会

〒107-0052 東京都港区赤坂6-10-41 ヴィップ赤坂303
TEL 03-3588-1040 FAX 03-3588-1225

E-mail: imoshin@fancy.ocn.ne.jp
郵便振替 00130-1-110152

印刷 株式会社丸井工文社